

怒っている人

お釈迦さまが王舎城の近く、竹林精舎というところに

たときのこと。そこに、バラモン教の僧侶の男がやってき

ました。どうやら、その男の家族が、バラモン教を捨てて、

仏教の僧侶になったことに腹をたてているようです。

その男がお釈迦さまの前に進み、顔をまっ赤にして怒り、

ひどい言葉をたくさんいいました。しばらく、お釈迦さ

まはその怒りの言葉を聞いていました。やがてその男が

少し静まったとき、

「あなたの家に、お客さまがくることがありますか？」

と、お釈迦さまはおかしな質問をしました。

するとその男はふしぎそうな顔をして、

「もちろんだ！」と答えました。

さらにお釈迦さまは質問します。

「そのとき、客に食事を出すことはありますか？」

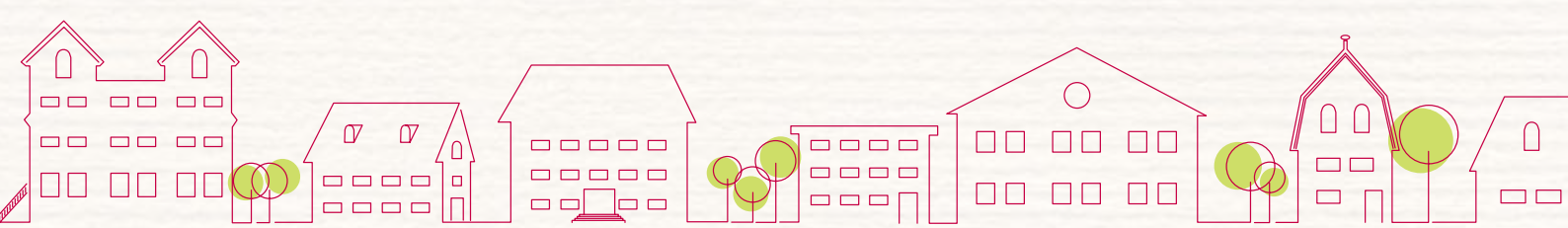
「もちろんだ！」

「では、客が何も食べずに帰ったとしたら、その食べ物

はどうするのですか？」

「食べてもらえなければしかたがない。それは私が後で食





べるだろう」

「今あなたは、私の前にいろいろな悪い言葉をならべました。しかし、私はそれを頂きません。だから、それはもう一度あなたのものになります。」

さらにお釈迦さまは、

「もし私があなたにののしられ、ののしり返したとしたら、それはあなたと一緒に食事をすると同じです。わたしはあなたからのご馳走はいただかないよ」

そんな事をいわれた男はさらにふしぎそうな顔をしていました。

「あなたは怒るということがないのですか？」

その質問に対してお釈迦さまは、

「怒っている人に、怒り返すのは悪いことです。反対に怒っている人に、怒り返さないものは二つの勝利が与えられます。他人が怒っているのを知って、正しく自らをしずめる者は、自分に勝ち、また他人にも勝るのです」
この対話の後、この男はお釈迦さまの魅力と教えに導かれ、弟子となり、尊い聖者になりました。

おしまい

